

小地域福祉活動 事例集 Part 3

～あなたの福祉がきっとある～



社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会

小地域福祉活動とは、住民の日常的な暮らしにおいて、身近でなじみのある自治会や小学校区などの地域を範囲として、住民が主体となって行う活動です。

地域で生活を送るうえで、住民にとって共通の課題となっていることや、孤立死などといった問題が起こることを防ぐために、住民が力を合わせて住民同士のつながりづくりや、日常的な助け合いの活動、担い手づくりなどを地域の状況に合わせて展開をしています。

この小地域福祉活動は、「住民だけで行わなければならない」というものではありません。住民の力だけで解決が困難な場合には、関係機関や専門職・様々な分野の組織・団体等と『連携・協働』をして課題を解決するための活動に取り組んでいます。

今回の「小地域福祉活動事例集 Part 3」では、浜松市内の**多様な組織・団体と連携・協働した取組み**を紹介します。

令和7年3月



小地域福祉活動の内容

小地域福祉活動は、地域で起きている、あるいは起こりそうな「問題」について、住民自身が考えたり調べたりして、具体的に取り組んでいく「課題」にしていくことから始まります。そして、その「課題」の解決に向けてどのように取り組むのかを話し合い、合意形成をしてから具体的な活動が開始されます。

小地域福祉活動の展開

※一般的な展開方法

住んでいる地域の困りごとを知ろう

困りごとは、ひとりの問題ではなく、みんなの問題です。
まずは、地域にある困りごとを把握しましょう。



地域のことを知り、分析しよう

改めて地域を調べ、分析することでこれまで見えなかったことが見えるようになります。

活動をはじめるための準備をしよう

地域で活動している団体を調べたり、同じ想いの人や関係者とつながりましょう。



活動の継続のために計画をつくろう

計画を立てる上でのポイントや注意点を考え、仲間で共有しましょう。

実際に活動してみましょう

活動は無理せず、一人で抱え込まず楽しくみんなで行いましょう。実践するために必要なことを学びましょう。



活動をふりかえってみましょう

計画と活動を見比べ、評価してみましょう。課題と対応策をみんなで話して次の活動に活かしましょう。



1	キーワード ブログ		広報をブログで身近に！	P.4
2	学習支援		おなかを満たして宿題をやっつけよう	P.5
3	コミュニティ		もったいないから、地域のつながりへ	P.6
4	ホームページ		多様な媒体を活用した情報発信	P.7
5	集いの場		みんなで作るみんなの居場所	P.8
6	居場所		笑顔いっぱい！みんなの駄菓子屋	P.9
7	子ども食堂		小規模多機能施設を活用した子ども食堂	P.10
8	多文化共生		あなたも町民！みんなが読める回覧板♪	P.11
9	子育て		舞阪の子！みんなあつまれ～！！	P.12
10	育成		地域と子どものつながりづくり	P.13
11	SDGs		先輩から後輩につながる制服 制服に第2の人生を	P.14
12	友愛訪問		チーム三ヶ日！地域がつながるきっかけづくり	P.15
13	企業		みんながつながる地域の信用金庫	P.16
14	家事支援		家事支援をもっと身近に作戦！	P.17
15	交流		ラジオ体操をきっかけに新たなつながりが生まれる場	P.18
16	買い物		笑い声いっぱい！ふれあいと買い物の場マルシェ	P.19

地区社協



民生委員児童委員
協議会



ブログによる情報発信

基本情報

活動頻度	常時
利用料	無料
活動の担い手	地区社協



地区社協ブログ

<https://koutou430.hamazo.tv>



きっかけ

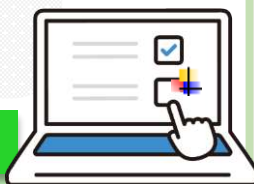
平成18年に地区社協の広報担当者がブログについて学べる講座を受講したことがきっかけで、地区社協の活動や魅力をもっと広めていきたい！という思いから、ブログを開設しました。

ブログを開始した当初、地区社協の広報誌は年2回の発行であったため、いつでもイベントの情報・活動の様子を発信できるブログは広報として魅力的でした。

活動内容



イベントやサロンの様子については、写真とその説明を載せてわかりやすく報告する工夫や活動日に更新する意識をしています。また、開催予告や実施内容をすぐに周知することで参加者の増加につながりました。



活動開始までの流れや工夫



主に、地区の特色あるサロンの紹介・共有をしています。地域に情報が広がれば、次の活動のヒントにつながると感じます。

また、外出することが難しいお年寄りの方にも楽しんでもらいたいと、地域の活動のほかに季節の花や観光地の写真も載せています。



実績・効果

(ブログを見ている地域の方から)

地区社協ブログに興味を持ってからずっと見ている。自分が住む町以外のサロン活動の様子も分かりやすく面白いです。地域の活動の様子だけでなく、綺麗な景色の写真も掲載されており、旅行に行った気分になります。

地区に住んでいる人にもっと見てもらいたい！1人が頑張っただけではなく、地区のみんなで広げていきたいと思っています。



地区社協ブログより
「子ども講座」

担い手の
想い

何でもない1日でも記録に残すと思ひ出になります。公開すると多くの人に読んでもらえ、シェアできるので励みになります。これからも地区社協のお知らせや報告、地域であった出来事や困ったこと、赤ちゃんから高齢者までみんながつながって声掛けのできる身近な情報をタイムリーに発信します。スマホで気軽に検索してみてください。日常が楽しくなります。人の役に立てると思ひます。

主任児童委員



学校



SSW



長期休暇の子どもの居場所
たんぽぽの家

基本情報

活動場所	浅間小学校
活動頻度	長期休暇の間(2~3日)
利用料	無料
活動の担い手	主任児童委員

活動開始までの流れや工夫

主任児童委員が中心となり、学校やSSWと連携し、見守りが必要な児童が参加をしています。学校、児童、家庭、主任児童委員の信頼関係があることが大切と感じます。

実績・効果

以前は長期休暇の宿題が終わらずに新学期を迎えていた児童も、たんぽぽの家に参加するようになり宿題を終わらせて新学期を迎えています。また、笑顔が少なくいつも不安を抱いていた児童も笑顔が増え、学校内でも明るくなりました。

「給食がない長期休暇中での空腹を満たしたい」「不安なことがないかを確認したい」「マンツーマン対応をする」これらを心がけており、児童の様子が変わりとても効果的です。お米などのお土産も用意しており、ご家庭の方にも喜ばれています。



担い手の
想い

学校とSSWの協力により活動ができました。今まで家庭訪問が出来なかったご家庭へ訪問できるようになったことや、お電話でつながることができたことは、確実に「子どもの居場所」の役割が果たせていると思っています。今後も子どもがホッとできる場所を細く長く継続したいと願っています。そして「ひとりじゃないよ」「信頼ができる大人が身近にいるよ」と知ってもらえたら最高です。

きっかけ

スクールソーシャルワーカー(以下、SSWとする)に「子どもの居場所作りをやってみたいか」と声をかけていただいた事が始まりです。気に掛かるご家庭や児童の長期休暇中の生活の見守りについて、何かできないかと考えていたタイミングでもあり、動き出すきっかけとなりました。

活動をスタートするにあたり、学校と何度も協議を重ね、全面的な協力を得て活動を始めることとなりました。

活動内容

毎回、参加者の自己紹介から始まります。

活動は「宿題⇒絵本の読み聞かせ⇒宿題⇒おやつ⇒宿題⇒ゲーム」と時間割を作成し、宿題の時間は集中できるように20分としています。

活動前、活動中には用意したおにぎりをいつでも食べられる環境にし、宿題の時間はマンツーマン、おやつは子どもも大人もみんなで一緒に食べ、孤独感をなくす工夫をしています。



地区社協



地域住民



JamJam の木運動

基 本 情 報

活動場所	高台協働センターほか住吉・和合地区内
活動頻度	不定期
利用料	無料
活動の担い手	地区社協・地域住民



きっかけ

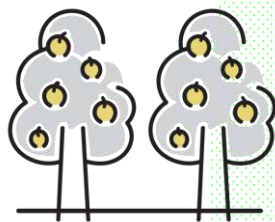
地区社協では、「支え合い、生きがいのあるまちづくり」をテーマに活動しています。春になると地域の家庭の庭や畑の夏みかんの木に多く実がなりますが、収穫できなかった実は地面に落ちてしまいます。中には、高齢になったことで収穫作業が難しくなり、放置されてしまうことも少なくありません。せっかくの果実が「もったいないね」との声もあり、何とか活かすことができないかという思いから、令和5年度から「JamJamの木運動」が始まりました。

活動開始までの流れや工夫

ボランティアには、地域の子どもから高齢者まで幅広い年代が参加しています。令和5年度に収穫した夏みかんは、浜松城北工業高校の料理研究部顧問の先生の協力で、夏みかんのジャムを作成しました。



活動内容



ジャム作りについては、収穫→下処理→煮込み→瓶詰めを全てボランティアによる手作業で実施しています。皆さんで作られている様子は笑顔が溢れています。完成したジャムは、夏みかんを提供した家庭やボランティアにお渡ししました。また、翌年は完成したジャムを障がい者就労施設に提供し、販売していただきました。

実績・効果

ジャムはなんと5日間で完売となり、障がい者就労施設の収益となりました。

参加者や地域の方から、「ジャムが美味しい」という声が届いています。

夏みかんが「もったいない」という声から集まった活動ですが、ジャムを通して、地域の皆さんや浜松城北工業高校、就労支援施設との「輪」が広がりました。

担い手の
思い

地区社協の会長に想いを聞きました！

「JamJam の木運動」は、夏みかんの収穫、ジャムを作ることだけが目的ではありません。今回の運動を通じて、地域住民が収穫やジャムを作るときにコミュニケーションが生まれ、地区の住民同士をつながたい思いから、実施しています。



地区社協

情報通信技術
(ICT)ホームページによる
情報発信

基本情報

活動頻度	常時
利用料	無料
活動の担い手	地区社協



地区社協ホームページ

<https://mikatahara-shakyo.org/>

きっかけ

令和元年度、地区全域を対象に住民アンケートや住民懇談会などで「地域診断」を行い地域が抱える福祉課題・生活課題の把握を行いました。その中で、多年代に向けた地域福祉活動の周知不足が取り上げられ、5か年計画の中で地区社協広報部会として、地区社協ホームページの立ち上げ計画を策定し、立ち上げに向けて進み始めました。

活動開始までの流れや工夫

ホームページ作成に向けて、地区社協広報部会を中心に4人のプロジェクトメンバーが話し合いを行いました。業者から見積もりを取ると大変高額でした。そこで組織内で相談したところ ICT に精通した人材が見つかり協力いただける事となりました。プロジェクトメンバーと掲載内容について話し合い、その方と共にホームページを作成しました。(令和3年4月)

ホームページ作成に伴い、三方原地区社会福祉協議会のシンボルマークも製作する事となり、メインデザイン(緑・四つ葉のクローバー)を決めた上で、地元の高校生がプロジェクトメンバーと打合せを行い、シンボルマークを製作しました。現在ではホームページだけでなく、様々なイベントにも活用しています。

なお、多くの人達に見てもらいたいとの思いから、立ち上げ当時からスマートフォン対応をしています。

活動内容

主な掲載内容は

- ①地区社協の概要(沿革・概要・歴史)
 - ②各部会の活動内容
 - ③地区社協だよりのバックナンバー
 - ④お知らせ(地区社協のイベントの日程や近況など)
- 各項目を都度更新しています。

特に④のお知らせについては常に最新の情報を掲載しています。

<地区社協会長>

地元の団体や地域の方に知ってもらい活動自体に協力や参加して欲しい。ホームページに限らず、まだまだ「地区社協」という団体をPRしたい。

担い手の
想い

実績・効果

- ・各部会活動の周知だけでなく、家事支援やふれあい相談室等の相談問い合わせでも活かされています。
 - ・地区社協役員やメンバーの名刺に QR コードが記載されており、簡単に外部団体(学校や企業)に地区社協を周知するきっかけとなっています。
 - ・協働センター事業(スマホ教室)や地区社協での LINE 講座とも連動させており、新たにスマホを活用する地域の方にも周知しています。
- 今後の展望としては、地区社協として、ホームページに載せる記事をもっと洗練させたい。特に①新しい情報②見やすい記事③見ていて楽しい物を目指しています。その為には地区社協内部でもホームページの仕組みをもっと知ってもらう必要があると考えています。

ホームページ立ち上げから現在も関わるプロジェクトメンバー

今後もとにかくホームページを更新していく！ホームページの更新を継続していくには、継続して運営できる地区社協の組織作りが必要。運営を引き継ぐ際にはホームページ自体も熟成させたいと考えています。



広報部会 部会長



今の時代は人それぞれの生活様式が多様化しています。紙以外の媒体で情報共有する事で、人それぞれの見方ができるのではないかと考えています。

参加者



自治会



居場所づくり



みんなのプロジェクト
持ち寄り食事会

基 本 情 報

活動場所	半田団地公会堂
活動頻度	隔週水曜日
利用料	無料
活動の担い手	参加者のみんな



きっかけ

活動場所はひとりで暮らす高齢者が多い地域にあります。ある時、地域に住む方から「ひとり暮らしになって、家で晩ごはんを食べるのが寂しい」という声が自治会長へ寄せられました。そこでみんなで晩ごはんを持ち寄って食事することを思い付き、この会が始まりました。



活動開始までの流れや工夫

きっかけとなった「家で晩ごはんを食べるのが寂しい」と言っていた方も「呼びかけ人」として地域への声かけから関わっています。また、この会は運営者・利用者のような関係はなく、みんなで協力して会場準備や片付けをし、食事や会話を楽しめるような場になっています。

活動内容

隔週水曜日17時から18時30分までの間、参加者がそれぞれ晩ごはんを持ち寄って食事・交流をします。予約は不要で時間内なら気軽に寄ることができます。決められたプログラムはなく、家庭的な雰囲気の中でそれぞれ食事や会話をゆるやかに楽しめます。

実績・効果

<参加者の声>

- 出かける場所はあるけど、家に帰るとふと寂しく感じる時があって、こういう場所があったよかった。
- 集まる日には普段作らない物を作ってみたり、お洒落をしてみたり...挑戦してみようという元気がもらえ、ほんの少し生活が華やかになります。



【呼びかけ人の一言】

まずこの会が始まって私自身もすごく楽しいです。活動はみんなでわかちあうということが大切だと思っています。

また、これからもできる限り色々な人に参加してほしいと思いますが、今の雰囲気も大切にしていきたいと思っています。

担い手の
想い





駄菓子屋



あそびスペース

子どもの居場所
まつや堂

基 本 情 報

活動場所	浜松市中央区安間町 643
開催時間	主に月・水・金曜日の放課後と土曜日 詳細は Instagram と公式 LINE でお知らせ
利用料	無料
活動の担い手	店主・ボランティア



まつや堂 Instagram・公式 LINE



@MATUYADOU.DAGASI



きっかけ

昔は子どもたちが買い物できる商店や遊び場がありましたが、最近はコンビニも無い地域となってしまう、子どもたちが遊ぶ姿も見かけなくなったように感じていました。

変わりゆく地域を見ていく中で、子どもたちが安心して遊べて、一人でも来られて、行けば誰かがいる場所があったらいいなと思い、「駄菓子屋」と「あそびスペース」をスタートさせることを決めました。

不定期でおにぎり食堂や手話講座などのイベントを開催することもあります！
こちらは手話講座の様子です。



活動開始までの流れや工夫

知人、自治会、民生委員・児童委員など地域の方から、市社協や県にも相談をし、活動の方向性を決めたり、既に活動している団体の見学に行ったりしました。相談や見学から得た情報を踏まえ、まずは自分にできる範囲のことから始めようと決めました。

また、活動の拠点となる建物は、図面に起こす時から子どもの安全面を意識して作り、テーブルやイスの高さなども子どもに合わせたものになっています。



活動内容

駄菓子屋と併設して「あそびスペース」を同じ建物内に設けています。主に小中学生が対象ですが、乳幼児や高齢者の利用も歓迎しています。スペースにあるおもちゃで遊ぶ子もいれば、宿題をする子もいて、それぞれが自由に過ごせる空間となっています。また、安全面を考え、ボランティアが子どもたちを見守る体制を取っています。

実績・効果

バラつきはありますが、毎回 5~20 人ほどが来てくれます。活動開始から時間も経ち、多くの子どもたちに「まつや堂」を知ってもらえたと感じます。

小学校や学年が違う子同士が交流できる場となっており、それをきっかけに学校でも会話が生まれていたらいいなと思います。

また、土曜日は親子で来られる方も多く、保護者同士のコミュニケーションの場となることもあります。

担い手の
想い

地域の子どもたちが来店してくれることがうれしいです。

これからも安心安全な場所として「まつや堂」を続け、店主・ボランティアとで子どもたちを見守っていかれたらと思っています。

また、今後は地域の方との交流イベントも開催していきたいと考えており、子どもだけではなく、大人にとっても笑顔が溢れる場にしていきたいです。



基 本 情 報

活動場所	小規模多機能型介護「たんぽぽ」	活動頻度	第3土曜日(17:00～)
利用料	なし	活動の担い手	地区社協、民児協、ボランティア

きっかけ

色々な家庭が楽しく交流しながら子育ての支援が出来たらいいな、地域の子は地域で育てたいとの思いがきっかけとなった活動です。

地域の支えあい助けあいの活動をしようとボランティアグループ「みんなの桃の里」の準備を進めていました。そのような中コミュニティーソーシャルワーカー(CSW)から「可美地区住民で子ども食堂を行いたい人がいますよ。」と情報提供を受け、その方と思いが一致したことでメンバーに加わり、次世代を作る子どもたちと子育て世帯を支援するために子ども食堂を立ち上げました。



活動開始までの流れや工夫

会場探しが難しい中、メンバーの一人がオーナーをしている小規模多機能型介護「たんぽぽ」より実施会場として提供して下さることを聞き、平成29年から開催決定。「ふれあい子ども食堂もも」として活動を始めました。

活動内容

スタッフ会議を毎月1回開催し、打ち合わせを行っています。当日はみんなで楽しい食卓を囲み、心身ともに休まる居場所の提供、季節の行事など取り入れた体験の提供を行っています。食事中はスタッフが子どもを見守っているので親御さんにも安心して休むことが出来る場所を提供しています。

実績・効果

親や子ども同士が顔見知りになれることで、交友関係が広がっています。

また、スタッフ(地域住民との知り合い)とも話ができるようになることで、身近な相談先となり、見守り活動にもつながっています。

継続して活動を行ってきたことで、企業から食料品や寄付金など支援をしていただけることも増えてきています。



担い手の
想い

子育てしながら働いていて、季節の食材を使用したり、手の込んだ食事の支度は難しい時もあると思うので、せめて月1回の子ども食堂には少し手をかけた家庭料理を提供したいと思っています。運営をして丸7年が過ぎ、「ふれあい」や「こころ」の支援を必要としている家庭へ手を差し伸べられるように活動したいと思いを持って活動をしています。

若い子どもたちや若い母親の元気な顔が見られるのが楽しみです。



自治会



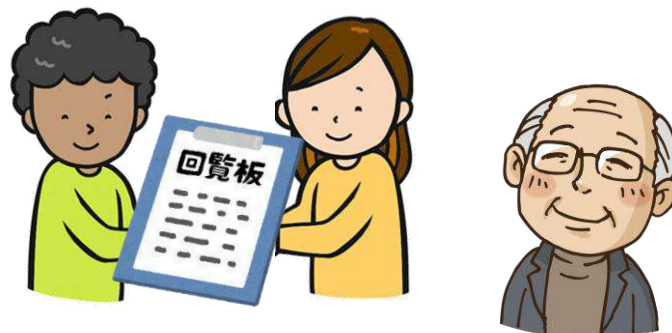
外国にルーツがある方



多言語回覧板

基本情報

活動場所	河輪町下
活動頻度	随時
利用料	なし
活動の担い手	自治会



きっかけ

浜松市には外国にルーツのある方がたくさん住んでいます。

河輪町下自治会では、外国にルーツのある住民にも同じように自治会費をもらっているにもかかわらず、地域の行事や重要なお知らせが伝わりづらいのではないかと考えました。

活動開始までの流れや工夫

言語の壁を越え、すべての住民が安心して暮らせる町を目指し、回覧板の多言語化に取り組みはじめました。

活動内容

現在、河輪町下自治会では、自治会で作成する町内のイベントの案内や行政機関などからのお知らせをポルトガル語に翻訳して外国にルーツのある住民に配布しています。

ポルトガル語に翻訳している理由は、ポルトガル語が公用語のブラジルにルーツのある方が多く住んでいるためです。自動翻訳ツールを活用することでスムーズな翻訳が可能であり、言語の壁を感じさせない地域づくりを推進しています。

実績・効果

回覧板の多言語化が進んだことで、全住民が必要な情報をタイムリーに得られるようになりました。また、自治会活動にあまり馴染みのなかった住民にも活動を知ってもらうきっかけとなったと思います。

今後は、外国にルーツのある住民の地域参加が増え、町内のコミュニケーションが活性化し、住民同士の信頼関係が深まることを期待しています。

担い手の
想い



多言語の回覧板をまわすようになって、「このポルトガル語間違っているよ～(^^)」など、外国にルーツのある方からも反応をいただけるようになりました！



日本語版



ポルトガル語版



地区社協

民生委員児童委員
協議会保育園
幼稚園子育てサロン
親子のほっとタイム

基本情報

活動場所	舞阪支所
活動頻度	月1回 第1水曜日
利用料	無料
活動の担い手	地区民児協、地域の保育園・幼稚園の先生



きっかけ



10年以上前、未就園児を連れて出かけることができる場所はまだまだ少ない状況でした。その頃の(旧西区)民生委員児童委員協議会の中では「主任児童委員が主となって、すべての地区に未就園児や子育て世代が集える場所を作ってみよう。」という議論を重ねていました。その結果、地区内の子育て世代が気軽に集える場として「子育てサロン」を立ち上げることになりました。

活動内容

10年が経過した今でも地区内の園の協力は続いていて、子どもたちが楽しく遊ぶ機会となっています。最近では、地区内出身の“運動あそび”の先生にも年4回来ていただき、楽しく運動遊びもしています。

また、子ども同士の交流だけではなく、保護者同士の交流の場にもなっています。情報交換の他には、着ることができなくなった服をお渡しするなどSDGsな活動にも広がっています。

担い手の
想い

「親子のふれあい」を大切にしながら、家庭と違う環境を提供して、慣れない場に溶け込む力が身につくなど、子どもたちの成長に貢献できることがうれしいです。

保護者の方には、安心して参加していただき、交流や「ほっ」とする時間につなげてほしいです。

「ここに来られるということはそれだけ親子が元氣だ」ということ。「フォローや声かけを必要としている親子がいるかもしれない」と気をつけながら活動を続けていきます。

活動開始までの流れや工夫

舞阪地区内にあった5つの保育園・幼稚園に協力を仰ぎました。

毎月1園ずつ先生を派遣していただき、子どもたちへの遊びの提供や、保護者が気軽に子育てについて相談できる環境づくりをしました。

中には障がいを持つ子どもを持つ保護者の方から、就園に関する相談も受けたりすることもあるので、先生に相談をつないでしています。



実績・効果

“未就園児が出かけられる場所”としてスタートした「親子のほっとタイム」は、保護者たちの交流の場にもなっています。ここで生まれた関係が、就園後、就学後…と子育てのステージが進んでいっても続いていることが何よりも嬉しく実績だと感じています。

一方で0歳児保育が増えていることにより、参加してくれる親子が減ってきたことが課題となっています。



「親子のほっとタイム」の開催状況等は、下記ホームページで確認ができます。

浜松市子育て情報サイトぴっぴ

<https://www.hamamatsu->

[pippi.net/tsunagaru/group/circle1/18169](https://www.hamamatsu-pippi.net/tsunagaru/group/circle1/18169.html)

[.html](https://www.hamamatsu-pippi.net/tsunagaru/group/circle1/18169.html)



地区社協



小学生・中学生



こどもボランティア

基本情報

活動場所	入野地区
活動頻度	年間 10 回以上
利用料	なし
活動の担い手	地区内小学4年生～中学3年生



地区社協ブログ

<https://sahura.hamazo.tv/e9828>



きっかけ

地区社協では、小・中学生に地域福祉や防災に関心を持ってもらいたいと「こどもボランティア」として活動してきましたが、今年度からは継続してボランティア活動ができるようにボランティア団体(スマイルボランティア)を立ち上げました。



「こどもボランティア」として、お手伝いや運営をすることで、地域を知る大切な機会となっています！



活動内容

活動は、3 回の講座受講とサロン訪問や福祉まつりなどのボランティア活動を行います。特にサロン訪問は入野地区内にある高齢者サロンにて、講座で学んだレクリエーションを通して高齢者との交流を行っています。そこでは「こどもボランティア」と高齢者がおしゃべりに花を咲かせます。福祉まつりでは地区内の団体が多く参加するため、地域の人と知り合い出会う場にもなっています。



活動開始までの流れや工夫

「こどもボランティア」として1年間活動したあとは、「スマイルボランティア」という“ボランティア団体”に所属をするという仕組みにしました。

「こどもボランティア」として、ボランティア活動や地域について学ぶことからスタートし、その後スマイルボランティアとして自分たちがやりたいことに自由に取り組むことができ、活動の幅を広げられるような流れにしました。

担い手の
思い

<中学3年生生徒より>

活動をしていくうちに、ボランティアは人々の生活をサポートする意味もあることやボランティアにはどんな事が必要なのか知る事が出来ました。小さなお手伝いが実はボランティアだったりするので、ボランティア活動は、決してハードルが高いものではありません。ボランティア活動の必要性や意義や目的を知り、ボランティア活動で周りの人達の支えになる事を知ることができました。

実績・効果

子どもたちは積極的に講座やボランティア活動に参加し学びを深めています。また、活動を通して様々な経験をする事やボランティアは楽しい、という意識を持ってもらい自分たちでも活動ができるように成長してほしいと思います。



高校・PTA



SDGs



浜松湖北高校 制服リユース活動

基 本 情 報

活動場所	静岡県立浜松湖北高校
利用料	無償
活動の担い手	学校・PTA

きっかけ

在校生や新入生の中で制服や体操服の購入が難しい生徒が一定数いることや、卒業と共に制服が行き場をなくして捨てられてしまうことなどから、制服のリユース活動を令和4年から開始しました。



活動開始までの流れや工夫

市内の制服のリユース活動について情報収集をして、本校で実施方法について考えました。その後、卒業する3年生へ不要になった制服の寄付を呼びかけ、集まった制服は学校内で仕分けをして、合格発表時から新1年生に対して譲渡会を実施しています。外部に頼むのではなく、仕分けから受け渡しまで学校の中で行われています。

私たちの制服が活用されて
嬉しいです!!



夏服



活動内容

朝のホームルームで先生が呼びかけをし、不要になった制服や体操服の寄付を募ります。集まった制服は合格発表時に、合格証書の受け取りの導線に制服のリユースのスペースを設けています。制服の購入が難しい世帯だけでなく、誰でも自由に見て持って行くことが出来るようになっています。また、その後に集まった制服は、PTAに協力をしていただき、文化祭にて無償で譲っています。

実績・効果

集まった制服の多くは、3年生が自分の意志で寄付をしたものです。捨ててしまうのではなく再利用し、環境にも優しい活動になっています。集まったほとんどの制服が新入生や在校生に渡っています。制服を受け取った方からは「制服代を他の費用に回すことができ、家計にも助かる」という声が聞かれました。

在学生から兄弟や後輩への口コミ等で制服のリユース活動について少しずつ広がっています。



SDGsの視点や子育て世代の金銭的な負担を考えると、今後も続ける意味があると感じています。

今後も長く活動が続け、先輩から後輩へ制服をつなげていければと思います。

地区社協



障害者施設



地域交流・友愛訪問

基本情報

活動場所	三ヶ日町内
活動頻度	12月～1月
利用料	無料
活動の担い手	地区社協、民生委員・児童委員

きっかけ

コロナが流行する前は、ひとり暮らし高齢者の方を対象とした、ふれあい会食会を開催していたのですが、感染リスクが高い会食会は中止せざるを得なくなりました。

以前から、地区社協の定例会議にNPO法人すだちの施設長が出席しており、相談できる間柄にあったので、人流を止めずに事業を継続することが可能な障害者施設の商品を活用した事業に転換しました。



NPO法人
すだち

活動開始までの流れや工夫

受け取った方に地区社協や施設を知ってもらい、一人でも多くの方に利用してもらうきっかけになればと思い、プレゼントの袋の中に、地区社協と施設について書いたチラシも入れています。



活動内容

歳末福祉事業補助金を活用して、町内で障害者施設を運営するNPO法人すだちで販売している洋菓子やメモ帳等をセットにしたプレゼントを届けています。

- ① 園児に、サンタに扮した地区社協のメンバーがクリスマスのプレゼントをしています。
- ② 一人暮らし高齢者に、民生委員の協力を得てお渡ししています。

実績・効果

高齢者のお宅に訪問することで、コロナ禍には健康状態の把握やワクチン接種状況等について確認することができました。また、プレゼントと一緒に入れたチラシを見て、施設に親子連れで商品を買いに来てくださるなど、地域がつながるきっかけにもなっています。



担い手の
想い

子どもたちは、サンタさんのプレゼントに大喜びでした。民生委員さんからは、「プレゼントを渡してから、気軽にお話ができるようになりました。」と大変好評いただいています。



信用金庫



新興住宅



店舗を活用した貢献活動

基本情報

活動場所	浜松いわた信用金庫きらりタウン支店
活動頻度	営業日(窓口終了後17時まで)
利用料	無料
活動の担い手	職員、地域のボランティアなど



きっかけ

私たちの店舗は浜名区染地台の新興住宅地で営業しています。バリアフリーや省エネにも配慮し、イベントスペースも設置し、「憩いの場」として、地域の方々に愛される店づくりをコンセプトとしています。

そのため、地域と連携をしながらいろいろな活動に取り組んでいます。

活動開始までの流れや工夫



- ・多年代の方が店舗に寄ってもらえるような取り組みを考えました。
- ・自治会や主任児童委員、近隣の企業などと協働で取り組みを進めていきました。
- ・多くの方に店舗を立ち寄ってもらえるような取り組みや、地域の一員と感じてもらうよう、地域イベントにも積極的に参加をしました。

活動内容

営業時間終了後の店舗のホールを利用して、ボランティアの協力で子ども向けの絵本の読み聞かせや手遊びを行いました。

地域の企業や店舗とも連携をして、小学生を対象に食育活動や、開店10周年を記念した多年代交流ウォークラリーなどを実施しました。

その他にも、子育て中のママ向けの講座や交流活動、高齢者とグラウンドゴルフ交流、多年代向けの陶芸教室など活動は多岐にわたります。



実績・効果

多年代に向けた活動を通じて、店舗が地域の方同士がつながる場となっています。

地域の子どもの集合場所となっており、外遊びの休憩、軽いけがの手当など、何かあったときには気軽に立ち寄ってくれるようになりました。

自治会役員からも「ここは特別」といった声をかけてもらえるなど、地域の一員としてこの地域づくりに関わっています。

担い手の 思い

店舗で働く職員と地域の方がつながり、ここに集った地域の方同士のつながりが生まれるような場所になってくれればと思っています。「大人も子どもも気軽に立ち寄って、何でも相談できる場所」そんな店舗を目指しています。



家事支援



地域住民

アシストあかさ
活動報告会

基 本 情 報

活動場所	赤佐地区	活動頻度	年1回
利用料	—	活動の担い手	地区社協

きっかけ

平成29年度に家事支援事業「アシストあかさ」を開始し、30分300円で地域に住む高齢者宅等の草刈りやゴミ出しといった簡単な家事をサポートしています。

一方、支援の偏りと依頼件数の伸び悩みが感じられ、要因として家事支援のPR不足と地域全体でお年寄りを支える活動に対する周知が不足と考えました。

活動開始までの流れや工夫

普段家事支援に関わることの少ない方々に、家事支援への理解を高めていただくことを目的に「アシストあかさ活動報告会」を開催しました。さらに、家事支援活動を身近に感じていただくため、広報用のマグネットや季節に応じた支援を紹介するチラシの配布にも力を入れています。最近では防災用の家具固定といった新たな支援内容を検討しています。

活動内容

「アシストあかさ活動報告会」では、アシストあかさに関わりの少ない方、自治会役員の方、民生児童委員の方々を対象に声かけを行ったところ、約50名のご参加をいただきました。
アンケートから見えた地域課題についての協議も行い、今後の活動に活かしています。

アシストあかさ

小さな家事の助けごと、地域のみんなでお手伝い

ご費用 300円/30分

☎053-588-3535

お申し込み 電話・来場日と時間

時間：14:00～16:00

アシストあかさ

小さな家事の助けごと、地域のみんなでお手伝い

ご費用 300円/30分

☎053-588-3535

お申し込み 電話・来場日と時間

時間：14:00～16:00

広報用に配布した
マグネット

実績・効果

活動報告会を通じて得られた情報や意見は、着実に利用者の問い合わせを増加させる結果につながっています。アンケートやグループ討議を通じた移動支援のニーズの高さは、地域の課題を浮き彫りにしています。さらに、報告会で配布されたマグネットは、他地区の家事支援活動においても参考にされたと聞いています。この活動が、地域のニーズに応じて進化し続けることを期待します。

担い手の
想い

赤佐地区家事支援事業「アシストあかさ」では、家事支援に対する地域の理解を深め、必要な時、気軽に利用できる福祉事業を目指すとともに、事業を長く続けていくよう周知や支援内容を改善し、利用者・支援者の利便性を図っていきます。

家事支援事業は、地域の方々に愛され、頼られ、必要とされる福祉活動を継続して活動して行きたいと思います。



地元商店



地域住民



地区社協



全員集合！ラジオ体操

基 本 情 報

活動場所	森のマルシェきこころ	活動頻度	毎週木曜日
利用料	無料	活動の担い手	地区社協、地域住民、地元商店



きっかけ



新型コロナ流行後「外出する機会が少なくなった」「認知症の相談が増えた」などの声を耳にする機会が増えました。それに問題意識を持った地域住民の方の声掛けに地域包括支援センター、コミュニティーソーシャルワーカー(CSW)、ふれあいセンター等が集まり、地域の中で何かできないかとアイデアを出し合った結果、誰もが知っているラジオ体操を実施できないか？という話になり、「全員集合！ラジオ体操」が立ち上がりました。



活動開始までの流れや工夫

お店を地域の交流の場として活用して欲しいと考えていた「森のマルシェきこころ」に相談し、開店前にお店の一角で実施できるようになりました。また、ラジオなどの道具についても近隣商店に置かせてもらったところ、参加者が自発的に準備・片付け等をしてくれるようになり、参加者全員で運営できるようになりました。

活動内容

9:30 ごろから参加者が集まり始め、9:45 からラジオ体操を実施します。毎週参加している人もいる一方で、特に欠確認等をしていない為、ふらっと立ち寄っていく人もいます。地区社協は、活動を主導するのではなく、ラジオ体操カードやシールを準備したり、節目のタイミングで賞状を用意したりするなど、裏方として活動を支援しています。

実績・効果

活動の気軽さから地域の高齢者や子育て中のお母さん、近隣商店の従業員や福祉施設の利用者、小学校の子どもが地域学習を兼ねて立ち寄るなど、老若男女が集まる居場所となっています。

参加者から「最近見ない人がいるけど、どうしたかね？」と聞かれるなどゆるやかな見守りの場となっています。

また、参加している福祉施設の利用者が、ラジオ体操後にお店の花壇に水やりをし、お店で休憩をしていく新たな動線が生まれています。

参加者の声



ラジオ体操の時間が近づくと人の輪ができ、挨拶を交わしたり、おしゃべりをしたり楽しい一時となります。そして、ラジオ体操で身体を動かす心地よさを味わい元気がでます。この場所を地域の皆さんと一緒に続けていきたいです。

「森のマルシェきこころ」に集まった人々が挨拶を交わしておしゃべりしたり、ラジオ体操カードに貼るシールを楽しみながら選んだり、そんな週1回の小さな幸せが集まる場だと思っています。素敵な一日の始まりとなる交流の場のお手伝いができて嬉しいです。



NPO



地区社協



社会福祉法人



商店



たつやマルシェ

基 本 情 報

活動場所	龍山保健センター・龍山森林文化会館
活動頻度	年3回
利用料	無料
活動の担い手	NPO法人・地区社協・社会福祉法人・商店・自治会・民生委員・児童委員等



きっかけ

人口454人、高齢化率70%の龍山で地元商店が少なくなり買い物に不便だという声が上がっていました。ある時、高齢の女性から「高齢で運転が難しい。旦那が運転できるが、『パンツを買ってきてほしい』と言いつらい」「履物も自分で履いて選びたい」との会話を耳にしました。そこで、地域に関わる様々な人たちが集まり、どうすれば地域の人たちが安心して生活を持続することができるのか話し合われ、立ち上がりました。

活動開始までの流れや工夫

「会場まで来る交通手段に困る」という課題に対して社会福祉法人が所有する車両を使って送迎。「履物が欲しい」という声に対しては区内の商店が当日持ってきてくれたり、生鮮食品や魚なども活動趣旨に賛同してくれる団体が協力してくれたり、できることを話し合いながら実施しています。地域が広いので2つの会場で交互に行っており、住民が参加しやすいように工夫しています。



活動内容

NPO法人ほっと龍山と龍山地区社協が中心となり、自治会、民児協、社会福祉法人や商店、物産品の販売団体と活動主旨に賛同した区内の商店などが一堂に集まり、年に3回マルシェを開催しています。

地域の方たちが、地元野菜や総菜、洋服や履物などを手に取りながら買い物を楽しんでいます。また、当日には町外に住む子どもさんたちも来場することがあり、久しぶりに出会う懐かしい顔に話が弾んでいます。

実績・効果

マルシェには地元住民や遠方に住む家族など約60～100名が来場しています。履物や服などを自分で試着して買える楽しさや、久しぶりに会えた友達と話す楽しさがあり、買い物支援だけではなく交流の場にもなっています。お楽しみのビンゴ大会では、子どもからお年寄りが一緒になって盛り上がっています。



担い手の
想い

人口わずか454人の龍山地域にあって、いろいろな機関・団体の連携協力のもとに「たつやマルシェ」が成り立っていることを誇らしく思います。

そして、この取り組みが買い物支援のみならず、住民のふれあい・にぎわいの場となって明るいまちづくりにつながっていければと願っています。



おわりに

『小地域活動事例集』は今回が3巻目の発行です。前巻の発行は令和4年12月、翌年5月に新型コロナウイルス感染症を5類感染症に移行させる政府方針とともに、日常生活の制限や自粛もようやく終息に向かい始めた時期でした。

令和2年からの新型コロナウイルス感染症の拡大は、私たちの地域福祉活動に大きな影響を与えました。地区社協活動をはじめとする多くの地域活動が開催自粛等の中断を余儀なくされ、地域での見まもり活動等に支えられている人だけでなく、地域でのつながりの分断によって、誰もが地域近隣からの孤立に陥るかもしれない、地域生活の安寧や安心を奪う深刻な事態であったと思います。

しかし、活動自粛によってサロン活動が開催できない事態にあっても、人びとを気づかい、つなぎとめる取り組みとして、電話や訪問による見まもり活動が多くの地域で展開されていました。そんな地域の底力から私たちも勇気をいただきました。一方で、このような取り組みからあらたに検討すべき地域課題も浮き彫りになっています。サロン等の居場所活動は、そこに参加できる人々には有効に機能しますが、さらに、さまざまな事情で足を運べない人々を取りこぼさない活動が必要になるということです。また、コロナ禍でデジタル化がいたるところで進行しましたが、そこから取り残されていく情報弱者といわれる人々たちへの対応も、今後の地域課題となっていくでしょう。

地域活動の慢性的な担い手不足の問題、その一方で、増していく地域ニーズへの対応と、地域活動はあらたな局面に差しかかっているように思えます。

浜松市は、他都市に誇れるほど地区社協活動が活発で、なかでも家事支援活動が広がり充実しています。しかし、どの地域からも「担い手不足」を懸念する深刻な声が聞こえ、地域での担い手の発掘は喫緊の課題となっています。担い手発掘のきっかけづくりに、様々な工夫がされていますが、容易く解決する課題ではありません。

例外なくどの地域もが抱えるこのような状況下で、活動者の高齢化、引退、減少、地域活動の停滞という、負のスパイラルに陥ることのない活動の安定は難しい課題ですが、地域活動を灯し続けるためにできることは何でしょうか。言うまでもなく、それは困難な状況下にあっても「活動を絶やさない」ことに尽きるでしょう。

今、「これまでのやり方」という「常識」に一步踏み込み、新しい発想が必要な時かもしれません。例えば、企業の営利と地域活動の公共性とは相反するという理解を超えて、営利企業も地域に貢献できる社会資源であり、地域力を支える存在として期待すること、また、今は各地区社協のエリア内で取り組んでいる活動を、隣接する地区社協どうしが相互に乗り入れて実施していくことも有効な方法になるかもしれません。

浜松市社協は、地域の皆さんとアイデアを共有しながら、さまざまな可能性を共に考え続けていく所存です。

浜松市社会福祉協議会 CSW アドバイザー

聖隷クリストファー大学 川向 雅弘

相談受付窓口（浜松市社会福祉協議会）

浜松市社会福祉協議会にはコミュニティソーシャルワーカー（CSW）が配置されています。

事務所名	住所	電話番号
浜松地区センター	中央区成子町 140-8	053-453-0553
東事務所	中央区流通元町 20-3	053-422-3737
西地区センター	中央区舞阪町舞阪 2701-9	053-596-1730
北地区センター	浜名区細江町気賀 4581	053-527-2941
浜北地区センター	浜名区小林 1272-1	053-586-4499
天竜地区センター	天竜区二俣町二俣 530-18	053-926-0322
地域支援課	中央区成子町 140-8	053-453-0580

<CSW の取組内容>

- 地域福祉活動への支援
- 地区社会福祉協議会や地域密着で活動するボランティア団体等 NPO への活動支援
- 居場所や交流の場づくりの促進
- 見守りネットワークづくり
- 社会貢献の促進
- 企業や NPO、学校等との連携の充実
- 多様な主体と協働するためのネットワークづくり

※「多様な主体」：地域住民やNPO法人、ボランティア団体、企業、行政など、さまざまな担い手のことを指します。



支え合いのある地域づくりを目指します！

地域福祉活動計画

地域福祉活動計画は、社会福祉法第109条の規定に基づく民間組織である社会福祉協議会が活動計画として策定するものであり、「すべての住民」、「地域で福祉活動を行う者」、「福祉事業を経営する者」等が相互に協力して、地域福祉の推進を目的とする実践的な行動計画（アクションプラン）です。地域福祉計画と一体的に策定し、その内容を共有し相互に連携を図りながら進めるものです。

こちらの二次元コード
で確認できます。





この事例集の表紙・裏表紙も「多機関協働」で作成をしました！

静岡文化芸術大学



浜松市
社会福祉協議会



小地域福祉活動事例集 Part3



佐々木さんのひとこと

福祉活動によって、みんなが分け隔てなく楽しく一緒に過ごせる世の中になれるといいなと思い、楽しくお花見をしている様々な人々を描きました。

作成者：佐々木 キャロリン千愛 さん
(静岡文化芸術大学1年生)

「小地域福祉活動事例集 Part1」・「小地域福祉活動事例集 Part2」は、下記の2次元コードから確認することができます。



浜松市 小地域福祉活動事例集



小地域福祉活動事例集 Part3

～あなたの福祉がきつとある～

●編集・発行 社会福祉法人 浜松市社会福祉協議会

〒432-8035 浜松市中央区成子町 140-8

TEL(053)453-0580 FAX(053)452-9218

<https://hamamatsu-syakyou.jp>



HP

浜松市社協



発行日：令和7年3月